

4th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入賞作品

- 主催 若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
主管 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
（伊豆沼・内沼自然フォトコンテスト実行委員会）
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、河北新報社
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会
協賛 富士フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

総 評

伊豆沼・内沼と自然写真コンテストの選考の結果を報告いたします。

先ず応募された作品が大変粒が揃っていて最終選考に残った作品は、どれもみんな素晴らしい作品だったということが言えると思います。

入選点数が非常に限られていて残念ながら落とさざるを得なかった。

いずれにしても伊豆沼・内沼は、自然の宝庫で野鳥の楽園でもありますから粘り強く丹念に撮影をすすめてゆけば、もっともっと自然のもつ素晴らしさを写真を通して多くの人々に訴える被写体ではないかと思います。

今後定期的にあるいは丹念に観察して、伊豆沼・内沼の素晴らしい自然の情景を写真を通し記録して、この自然環境を多くの人々にアピールして頂けると、とても素晴らしいことではないかと思います。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、『桜』をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会、日本旅行作家協会の各会員、日本写真芸術専門学校、現代写真研究所の各講師。

最優秀賞（宮城県知事賞） 「暁に舞う」

渋谷 昌久



【評】伊豆沼・内沼の作品としては極めてオーソドックスな狙いの作品と思います。朝明けに染まる沼と一斉に飛び立つマガンの姿がとてもダイナミックにとらえられていることと、自然のドラマを表現するのにふさわしい空間構成及びマガンの乱舞の姿というのが、一つの格調高い画面の中に納められていて、これぞ、まさに伊豆沼・内沼というイメージが的確に表現されています。

優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）

「ハッケ・ヨイ」

千葉 明男



【評】沼のほとりで戯れる2羽の白鳥の動きがとても自然でダイナミックで泥を撥ね上げ、白鳥の生態観察として面白い作品になっている。単に白鳥の姿が美しいとか白鳥の舞う姿が美しいとかを超えて、こういうところにまでに目を向けて行く、そしてこの沼が白鳥たちにとって欠かせない環境であるということが、こういう様子を通して伝わって行くと思います。力強い作品です。

金賞（若柳町長賞）

「伊豆沼の朝」

菅原 良雄



【評】朝霧が立ちこめる沼の静寂感に朝の光の中に浮かび上がる白鳥やカモが非常に幻想的な形でとらえられています。カメラアングルが低いために自らが沼に浮いているような印象でとらえられている。この朝の空気と同時に白鳥とカモの憩う、伊豆沼・内沼の環境というものが、非常に爽やかに表現されている作品です。

金賞（築館町長賞）

「黄昏の頃」

高橋 成幸

【評】ハス沼の冬の情景をとらえたものでしょう。中央附近にたたずむ一羽のサギの孤独感と同時に、沼の静寂感が非常に美しく表現されている作品で、沼のもつひとときの雰囲気を見事に的確なフレーミングでとらえている作品になっています。



金賞（迫町長賞）

「内沼に輝く蓮」

二瓶 茂



【評】伊豆沼・内沼の作品としては珍しい夏の写真です。大きく開いた蓮の華が実に見事に力強くとらえられています。伊豆沼・内沼というと、どうしても冬の野鳥の乱舞に視線が奪われがちですが、四季を通して沼の姿を見つめていくことが大切です。大きく開いた二つの蓮の花を中心に美しくフレーミングしている作品ですが、背景をもう少し絞り込むと、この場の説明を高めたと思います。絞りを開け過ぎたのが残念な気がします。

銀賞（若柳町観光協会々長賞）

「晩秋の沼」

篠原 善彦



【評】大変素晴らしい作品ですが、残念ながら最優秀賞の作品と類型化していた。どちらも素晴らしい写真ですが、厳密に見ていると最優秀賞の渋谷さんの方に一步譲らざるを得なかったところで、どうしても似た傾向の写真を描くという訳に行きませんので、ちょっと残念であります。

しかし空を飛ぶ野鳥の姿、熱太陽の形、水面の野鳥の姿は最優秀賞作品「暁に舞う」にない味わいがありまして、これも素晴らしい伊豆沼・内沼の朝の様子をとらえた作品として銀賞に選んだものです。

銀賞（築館町観光協会々長賞）

「未明の群翔」

天野 恵美

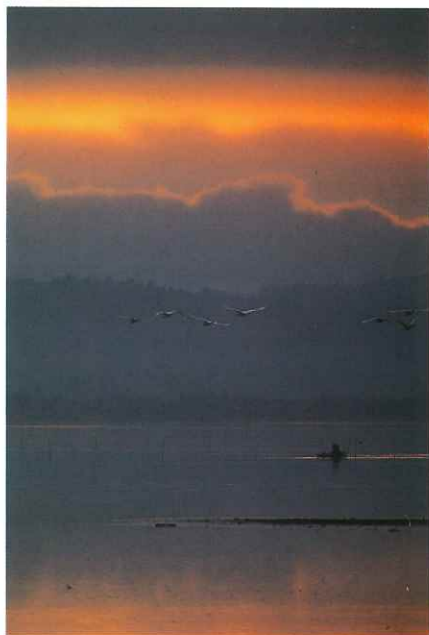


【評】大変素晴らしい伊豆沼・内沼の情景をとらえています。大空いっぱいに舞う野鳥の姿と、まだ明けやらぬ沼の幻想的な雰囲気独特の色調の中に語られていて非常に品のよい、しかも動きのある作品でより大きく伸ばしたり大きく展示することによって迫力を増す作品だと思います。

銀賞（迫町観光協会々長賞）

「早暁の飛翔」

天野 宗謙



【評】これは非常に地味な作品ですが、よく見ると画面の中心部に数羽の白鳥が飛んでいる。この数羽の微妙な色あいで全体の沈んだトーンの中に幽玄な雰囲気と、伊豆沼・内沼の早朝の時間帯の神秘的な空気感を引き出している作品です。

画面構成も上空の暁と水面の扱い、そして中央部の白鳥という関連が非常にバランスよく押さえられていてすぐれた作品です。

銅賞（河北新報社賞）

「伊豆沼盛夏・花と鳥」滝田 一郎



【評】夏の伊豆沼・内沼をとらえたもので、夏の水性植物とバンだと思いますが、野鳥との組合せが大変面白く美しくとらえています。夏に水性植物の花が咲くということをもっと着目して夏の沼の様子をどんどん撮られていいと思います。

この作品とてもそういう点で着目したところはいいんですが、鳥の形が不明解でもう少しすっきりととえられていると、もっと上位にはいった作品だろうと思います。

佳作 「朝霧につつまれて」

門間 孝夫



【評】これも非常に霧をうまく生かして霧のトーンの中で野鳥の姿をポツポツと入れていった。非常にユニークな狙いの作品です。

佳作作品の3点は狙いがユニークでそういう点はとてもいいですけども、これをもう少し力強く見せて行く工夫が必要です。

例えば、①左右をもう少し入れて行く。

②野鳥と背景のもう一つ何かを入れていく。

③全体に印象が面白いけれどもちょっと平板になっているところ。

もう一歩加えて行くとういう作品は、次の伊豆沼・内沼写真の新しい方向を開いてくれるのではないかと

佳作 「ポーズを取る前に」

高橋 良海



【評】白鳥のちょっとしたしぐさをていねいに観察して、それを面白くおかしくとらえるというのも、やはり白鳥に親しみをもたせるために大切なことで、こういう点では非常に面白いシャッターチャンスをとらえています。このような作品がもっと出ていいのではないかと思います。

佳作 「霧 景」

伊藤 潔



【評】大変霧の深い日に沼の上に浮かぶ一艘の小船と、それと対比させる形で木立を入れて、非常に幻想的な雰囲気を生み出している。木立の上に一羽の野鳥が、とまっているところも、ポイントとしてはすぐれたところで、非常に静かな中に朝の沼の雰囲気を感じさせる作品になっています。

ただ、プリントが左右がきれております左右にゆとりがあった方が、この霧の感じがより強調できたのではないかと思います。そこがおいしいかな印画紙の大きさにされておりますので、なるべくフルフレームで伸ばすようにしたほうがいいと思います。

思われます。

限られた空間でこれだけのすぐれた作品が集まるといいうのは、これほど素晴らしい撮影地は他にないわけですから、是非四季を通していろんな角度で写真をとらえ、そして写真の素晴らしさと伊豆沼・内沼の良さを多くの人に知らせて頂くという企画は、大変面白いので私もそのようなすぐれた伊豆沼・内沼の作品を今後期待しております。是非頑張ってください。